【ねがいましては】

平成２２年８月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第２３８号

「こころを開く」

都会では連日の猛暑の中、今年も山梨県富士五湖のひとつ西湖にてCAMPが行われました。なんとも贅沢な声・・・「寒い」。朝は寒さで目が覚めるほど。ついつい都会での生活を、そのまま引きずってしまいがちな就寝、子どもたちは薄着のまま寝ることになります。しかし気温はどんどん下がり明け方になって毛布に包まり「寒い」。

しかしキャンプ場の方の声は口々に「今年は暑いですよ。」とのこと、はやり温暖化、いや高温化はキャンプ場にも例外なく押し寄せているようです。

今年は天候にも恵まれました。ほとんどの食事は外でとることができました。涼しさの中で口に運ぶ味噌汁の美味しさ、程よく体を温めてくれる喜びまで味わいます。走ってもさほど汗は出ません。思い思いに子どもたちは遊びます。ここに個性がはっきりと出てきます。一人ひとりの普段の生活（家族・学校）から受け取ったものが現れます。

私は人とのふれあいに最も大切なものは『信頼』であると思っています。信頼の向こうには『安心』があります。その始まりが母と赤ちゃんの関係です。母に抱かれる赤ちゃんの安心しきった表情は、その究極の姿でしょう。やがて家族の一員としての『信頼』を吸収していきます。

個々の顔が違うように、信頼のあり方にも個性が現れます。条件も様々です。

一人っ子、大家族、母子家庭、家族の不和、学校でのいじめなどなど、子どもたちは、すべて異なった『信頼』への価値観を持っています。

信じるって何なのだろう。子どもたちはこんなことをじっくりと考えることが無いのが当たり前、信頼の度合いもまちまちでしょう。

このキャンプも、もう教室単独で行うようになり２０数年、最近の風景は徐々に変化してきているようです。

子供同士のつきあい方が苦手になったかな。みんなで一緒に〇〇しよう。といった下町的な遊びの風景が少なくなったような気がするのです。大人数というより少人数での遊びが多い。または１～２人で行動する。

大家族の中でのびのびと生活している子は、そのままワーワーキャッキャと、なんの警戒心も無く溶け込んでいます。なんとほのぼのとした光景、見ていてこちらがしあわせを感じます。一方、学校や家庭で人間関係に不和を感じたことのある子は少々違います。その現れ方は様々です。

ある子は自分にバリアを張ります。自分の生き方をそのままま っしぐら・・・でないと自分を保てない。これを身につけてしまいますと、周りからはあるひとつの評価が出ます。・・・わがまま。常に周りに対し、恐怖心を抱いています。自分では自覚していないのですが、知らずのうちに、そう振舞うことが自然体になっています。それで自分を保っているわけです。

ある子は他人との接触を極力避けます。他人との触れ合いが無ければ、不和は起こらずに済むわけです。自分が１００％こころを許した人のみに接していきます。

この両者に共通しているもの、こころを閉ざしていることです。こころを素っ裸にして生きること。何の屈託もなく、素直印の元気印、無邪気さ１００％で触れ合えること。こんな子どもたちの特権が薄らいで来ているように感じます。

人が生きてゆく上で必要な『信頼』・・・他人を信じる心。もう一度再確認をしてみる必要があるのではないでしょうか。家族が仲良く支えあい生活する姿に共通する姿、キャンプの食事を準備しているときの彼らの姿です。

その当たり前の繰り返しが、今、少なくなっているのではないでしょうか。夕食を家族全員でいただく、朝食を家族全員でいただく、その連続が言葉でなく体感で『信頼』を育んでゆく。

学校生活では育むことのできない『信頼』を、ぜひ今一度、ご家族全員で再構築なさってみてはどうでしょうか。

キャンプ場の夕方、「あうん」の呼吸で食事作りに勤しんでいるバンガローがあります。私たちスタッフさんたちのバンガローです。今年も良いお正月を迎えることができましたと、御礼のメールをいただいたＭさん、ありがとう。初めてお子さんお二人を連れての参加、Ｆさん、ありがとう。高校生スタッフただ一人の中、全力で子どもたちを可愛がってくれたＫくん、ありがとう。

「先生、一生のお願いがあります。」と言って私に迫り、何のことかと思ったら、「先生、お願いだからおねえちゃんをお嫁さんにもらってください。」・・・・・これだけは丁重にお断りいたします。でも、そんな言葉が発せられるのも、１００％私を信頼していただいている証拠ですね。ありがとう、Ｙちゃん。

誤解なさらないでください。けっしてお姉さんを軽蔑しているわけではありません。私にはもったいない素晴らしい方だからです。いつも笑顔の絶えない、笑いの耐えない、家族でいてください。そのままの『信頼』を、また来年、キャンプ場へ連れてきてください。ありがとう。他の皆さんありがとう。

そしてこの小さな団体を、毎年こよなく愛してくださるキャンプ場のご家族の皆さん、ありがとうございました。